

皇室とともに歩んだ那須町 ― 昭和から未来へ受け継がれる「ロイヤルリゾート那須」 ―

2026(令和8)年、昭和100年という大きな節目を迎えました。

那須町は、明治天皇の御巡幸から皇室ゆかりの地として親しまれ、皇室の方々が那須で過ごされるお姿が全国に広く知られるようになりました。

本特集では、昭和から平成、令和へと続く皇室と那須町の歩みを振り返ります。

第一章 皇室と那須のはじまり

■那須御用邸の誕生

1923(大正12)年、摂政宮時代の昭和天皇が那須を訪問されました。

那須温泉周辺から望む那須野ヶ原・関東平野の景観に感銘を受けられたことを契機に、1926(大正15)年に那須御用邸が設けられ、1935(昭和10)年には附属邸が建てられました。以来、那須は昭和・平成・令和と3代にわたり皇室ゆかりの地として受け継がれています。築100年を超える木造建築もありますが、那須と皇室を物語る貴重な文化遺産であり、日光田母沢・塩原御用邸のように保存・継承への関心も高まっています。



那須御用邸



昭和天皇御用邸御散策

■昭和天皇と那須の自然

昭和天皇は生物学に深い関心を持たれ、那須滞在中に自然観察や植物・菌類研究を行われました。那須岳への登山や周辺の調査を通じ、その成果は「那須の植物誌」としてまとめられています。その序文で昭和天皇は「(那須に来ることを)しあわせとして、付近の自然を楽しむことにしている」とお言葉を残されており、那須への思いがうかがえます。こうした自然環境は現在も那須町の大切な財産として守り継がれています。



近光別荘地から那須連山を望む

■別荘地・静養地としての発展

那須御用邸が建てられたことにより、多くの方々が那須に別荘を求めるようになりました。政財界の関係者だけでなく李氏朝鮮の流れをくむ李王家の那須別邸も置かれ、別荘地・保養地として那須が確立されました。その流れは戦後も続き、現在も多くの方々が別荘をもち、二拠点居住も進められています。

第二章 皇室と町民のつながりを未来へ

■町民との交流

戦後、皇室と那須町民はさまざまな形で交流を重ねてきました。戦後開拓として那須に入植した方々との懇談や、茶臼岳登山の際の那須山岳救助隊との交流をはじめ、町民による草刈り奉仕や奉迎、消防団活動などを通じて、皇室と町民とのつながりは現在まで受け継がれています。

こうした長年にわたる交流は、災害時にも温かな支えとして表れました。1998(平成10)年の那須水害の翌年には、現在の上皇上皇后両陛下と天皇皇后両陛下が町内の被災者をお見舞いし、励ましの言葉を掛けられました。



那須水害被災地ご視察



那須水害被災農家ご訪問

また、2011(平成23)年の東日本大震災では、天皇皇后両陛下の「ささやかでも宮内庁関連施設を役立ててもらえないか」とのお気持ちを受け、3月26日から4月19日までの間、那須御用邸附属の入浴施設が避難者に開放されました。さらに、町内の民間宿泊施設からも入浴施設提供の申し出があり、地域全体で被災者を支える取り組みが行われました。

皇室と那須町との絆は、平時の交流だけでなく、困難な時代をともに支え合う中でも育まれ、今日まで大切に受け継がれています。